



©2009 Mugen Edutainment Foundation

SENDto2050 PROJECT

Connecting Hearts of Children around the World

【about SENDto2050 PROJECT】
公益財団法人 夢現エデュテイメント
2014年1月作成

公益財団法人夢現エデュテイメント(SENDto2050 PROJECT)とは

1

【公益財団法人 夢現エデュテイメント】

設立年月日:平成21年6月5日(平成24年10月3日付けで公益財団法人(内閣府管轄)へ移行)
代表理事:森下雄一郎 事業所:〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋3-2-7 ORIX高麗橋ビル5階 電話:06-6209-8993

■公益財団法人夢現エデュテイメント(SENDto2050 PROJECT)とは

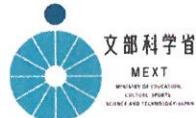
SENDto2050 PROJECTを主たる事業としている公益財団法人夢現エデュテイメントは、グローバルリーダーの育成を目的とし、国内では全国の「生徒会」を対象とした市町村から都道府県単位、そして全国規模での「生徒会サミット」の開催。海外対象では、国単位から世界規模での「生徒会サミット」の開催を行っています。各サミットにて生徒会としての地域貢献、世界貢献に対するアクションプランを作成し、計画に基づく実行までをサポートし、「誇り」を胸に、「志」を抱き行動を起こすことの成功体験を最大限提供しています。

最も重要な年代である「中学生」の、最もリーダーの資質をもつて「生徒会」へ、世界基準の「リーダー育成」を行っています。人生で最初に覚悟を決める中学生の「人生設計」において「リーダー」としての自覚と、母国への「誇り」を育み、世界規模の「志」を立てられる「場」や「プログラム」を構築し、教育現場と連携し実施しています。具体的には、2013年は、東日本大震災の被害を受けた東北3県をはじめ、全国20都道府県、そしてアジア10ヶ国にて、中学校「生徒会」による、「復興、街づくり」への参画計画を建てていき、実際に、生徒会として、参画をしていく。そのすべてを、SENDto2050 PROJECTがサポートをしています。(※事業の詳細は 次頁を参照)

SENDto2050 PROJECT 活動費用について

SENDto2050 PROJECTの活動費用に関しては、ご賛同を頂いている下記の団体、企業様等からの委託費、助成金、寄付等で活動をさせて頂いております。

■文部科学省からの委託費用



■企業、団体等からの寄付・助成金・協賛金等(パートナー企業様)

Panasonic SoftBank TIGER 佐川急便 PAL

■SENDto2050 PROJECT とは

設立者プロフィール 森下 雄一郎 (一般財団法人 夢現エデュテイメント 理事長)



小学5年生の時にバスケットボールで出逢う。
高校卒業後、友達からもらったビデオで世界最高峰の舞台「NBA」を知り、初めて「NBAの舞台に立ってプレイがしたい」という夢を持つ。
1997年、単身渡米しニューヨークシティーエコノミック大学からスカラシップを受け、同大学に入学。
1998年、米国大学リーグのアシスト王を獲得。同年、優秀選手賞を獲得。
2002年、「NBA」に最も近いマイナーリーグから、日本人として初めてドラフト指名を受ける。
2006年、ストリートバスケットボールの世界最高チーム「AND1」とアジア人として初めて契約。
2011年8月出身地の尼崎市にて引退。

事業概要



グローバルリーダーの育成を目的とし、国内では全国の「生徒会」を対象とした市町村から都道府県単位、そして全国規模での「生徒会サミット」の開催。海外対象には、国単位から世界規模での「生徒会サミット」の開催を行っています。
各サミットにて生徒会としての地域貢献、世界貢献に対するアクションプランを作成し、計画に基づく実行までをサポートし、「誇り」を胸に「志」を抱き行動を起こすことの成功体験を最大限提供しています。

出発点 “多文化共生で、「誇り」と「志」に出会い、世界各国の様々なリーダーとの出会い”



僕は1997年～2011年までの約12年に渡り、世界各国を周り様々な違いのある「人」達と生徒をしてきました。「どれだけの違いがあっても人は人」「大きな違いはない」とは思いませんでした。僕が世界で学んだことそれは、「違いがある人どうし」が共生をするには、互いのルーツ（過去や背景）に「誇り」を抱き、「誇りを認めあう」とからが全てのスタートだということです。「お前は何人だ?」「お前の育った国は？」と語りを語つてみたり、「俺たちの真似事をすんなよ!」。「互いが「誇る」違いをリスペクトし合えてからこそ、本当の仲間になるんだ」。

18歳の僕は、肌の色の違う2人の親父との出会いで初めて母国「日本の誇り」と出会いました。

そして、違いのある様々なグローバルリーダー達と仲間としての関係を築かせてもらいました。

解決したい課題 “世界に誇れる「日本人リーダー」の減少”



今日本の「日本」に世界に「誇」れるリーダーが何人いるのか? 何故、日本には志高きリーダーが少ないのか? 又、今後育っていくだろうか?
帰国後、自問自答しながら直接教育現場を周った中で、現状のままでは「NO」というのが僕の答えでした。私は、リーダーとはまず自分の周囲の相手に対して自分で考へ、行動できる人だと考えています。しかし、この自分で考へて行動するリーダーの養成は「日本の義務教育」において行われていなかったからです。そして、人種や宗教・文化などの違いがある国際関係において、「日本人」としての基礎づくりが義務教育において最も重要です。それが母国に対する「愛」を生み、この「國をつくる」といった「志」を育成していくことになります。

「誇り」と「志」こそ、世界の様々な人種と共に地球規模での未来づくりを先導してくれるグローバルリーダーと成っていく全ての基盤だと考えています。

活動内容 “世界各国の中学校「生徒会」を対象としたグローバルリーダーの育成”

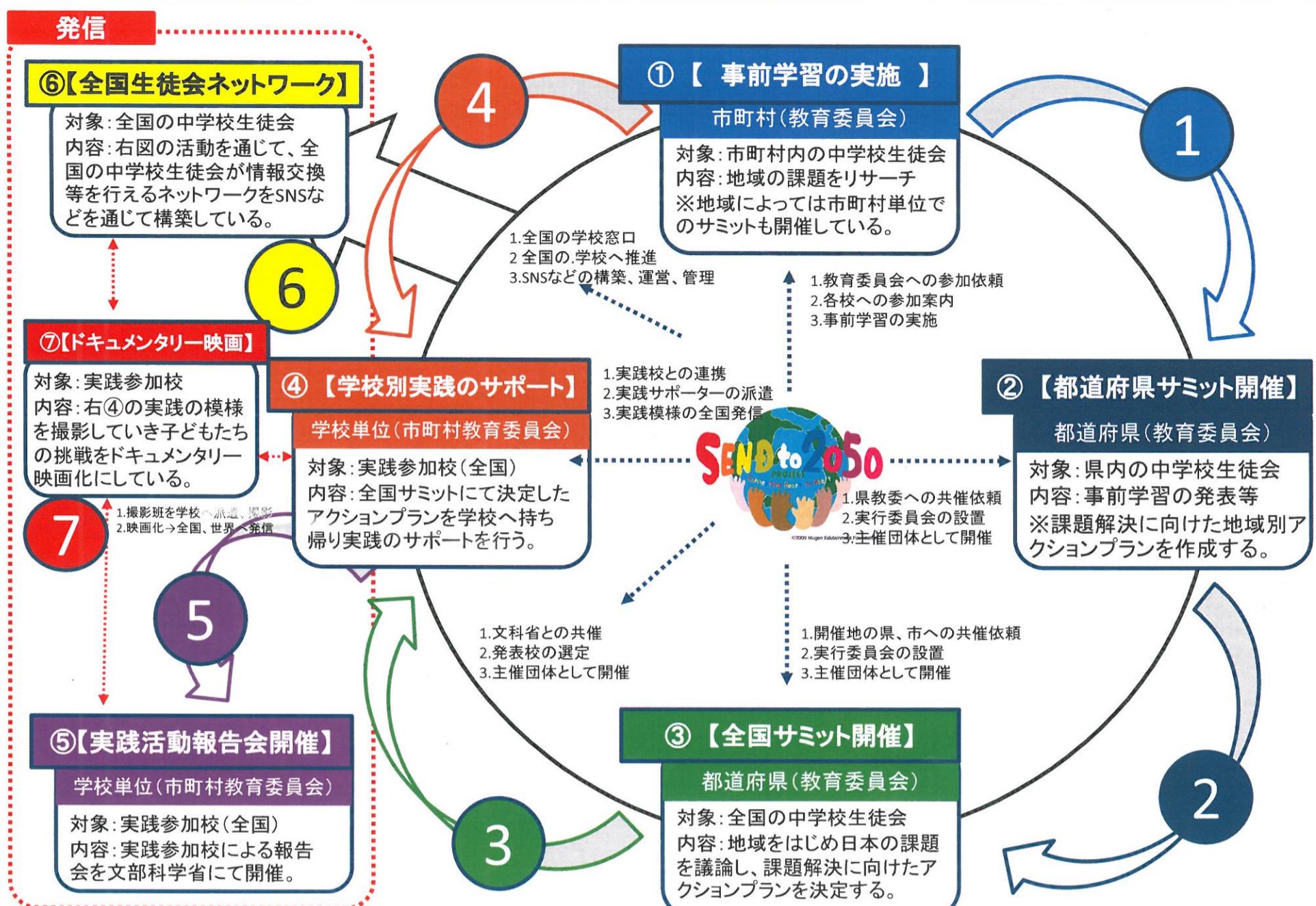


最も重要な年代である「中学生」の、最もリーダーの資質をもつて「生徒会」へ、世界基準の「リーダー育成」を行っています。人生で最初に覚悟を決める中学生の「人生設計」において、「リーダー」としての自覚と母国への「誇り」を育み、世界規模の「志」を立てられる「場」や「プログラム」を構築し、教育現場と連携し実施しています。具体的には、2012年は、東日本大震災の被害を受けた東北3県をはじめ、全国30都道府県、そしてアジア10ヶ国ごとの中学校「生徒会」による、「復興、街づくり」への参画計画を建てていき、実際に生徒会として参画していく。そのすべてを SENDto2050 PROJECT がサポートをしています。

描く未来 “世界に誇れる「日本人リーダー」育成を通じて世界をより良い方向へ導く”



2020年までに全国47都道府県の約1万校の全中学校「生徒会」、国連加盟国の世界191カ国の中学校「生徒会」の参加を目指しています。僕は確信しています。SENDto2050 PROJECTに参加してくれた中学生リーダー達が、30年後日本各地をはじめ、世界各国の市長や知事、経営者などの各界のリーダーに育っていることを。そして、中学生リーダー達が SENDto2050 PROJECT を通じて築いていく日本各地や世界各国の中学生リーダー達とのネットワーク・深い友情。彼ら、彼女たちが、リーダーになった時、必ずその国と世界を先導していくでしょう。そして、世界が平和へ一步前進していると信じています。



公益財団法人夢現エデュテイメント(SENDto2050 PROJECT)とは 『これまでの活動～平成24年度(一部紹介)～1/3』

3

■これまでのあゆみ(平成24年度)

① 伊達市中学生熟練研修会
共催: 伊達市教育委員会
日時: 2012年4月25日・26日
場所: 伊達市立霞山中学校
参加: 雪山中学校3年生全員
及び市内6中学校生徒会担当教員



② 釜石市中学生熟練研修会
共催: 釜石市教育委員会
日時: 2012年5月23日・24日
場所: 釜石市立釜石中学校
参加: 釜石中学校生徒会執行部・学級委員・班長
及び市内5中学校生徒会担当教員



③ 釜石市生徒会サミット2012
共催: 釜石市教育委員会
日時: 2012年6月21日・22日
場所: 釜石市立釜石中学校
参加: 釜石市内全5中学校の生徒会執行部
及び市内6中学校生徒会担当教員



④ 岩手県生徒会サミット2012
共催: 人権教育委員会
後援: 岩手復興局
日時: 2012年7月7日
場所: 大槌町公民館
参加: 富谷市、大槌町、釜石市、大船渡市の中学校生徒会役員
及び各参加中学校生徒会担当教員



⑤ 宮城県生徒会サミット2012
共催: 宮城県教育委員会
後援: 宮城県教育委員会、宮城復興局
日時: 2012年7月8日
場所: 塩釜ガス体育馆「会議室」
参加: 気仙沼市、石巻市、塩釜市、登米市の中学校生徒会役員
及び各参加中学校生徒会担当教員



⑥ 伊達市生徒会サミット2012
共催: 伊達市教育委員会
日時: 2012年9月9日
場所: 伊達市役所
参加: 伊達市内6中学校の生徒会役員
及び市内6中学校生徒会担当教員



⑦ 福島県生徒会サミット2012
共催: いわき市教育委員会
後援: 福島県教育委員会
日時: 2012年1月25日～27日
場所: 福島県・いわき県の家
参加: 伊達市、福島市、双葉郡、いわき市の中学校生徒会役員
及び各参加中学校生徒会担当教員



岩手県、宮城県、福島県にて実施開催されている各種事業は、文部科学省の委託事業(復興教育支援事業)として実施開催させて顶いております。

■これまでのあゆみ2(平成24年度)

■その他モデル実施開催(平成24年度)

① 和歌山県生徒会サミット2012
主催: 和歌山県教育委員会
協賛: 株式会社、島精機製作所
日時: 2012年6月16日～17日
場所: 和歌山市立中央コミュニティーセンター
参加: 郡内全城の中学校生徒会役員
及び各参加中学校生徒会担当教員



② 中国北京市生徒会サミット2012
主催: パナソニックセンター北京
共催: SENDto2050 PROJECT
日時: 2012年4月6月
場所: パナソニックセンター北京
参加: 北京市内の中学校生徒会役員
及び各参加中学校生徒会担当教員



■新聞掲載記事一覧(平成24年度)



公益財団法人夢現エデュテイメント(SENDto2050 PROJECT)とは 『これまでの活動～平成24年度(一部紹介)～2/3』

4

**「全国生徒会サミット2012」
2012年8月1日～5日
@釜石市立釜石中学校、岩手県立釜石高等学校**

**「実践サポートの実施」関係
(被災県共通アクションプラン)
『キューケンホフ思いやりの球根プロジェクト』
2012年9月～2012年12月**

**「AIサミット」
2013年2月8日@福島県福島市「AOZE」**

**「実践活動報告会2012」
2012年1月23日@文部科学省**

**「全国生徒会サミット推進協議会2012」関係
2012年4月～2013年3月**

**「実践サポートの実施」関係
(映画プロジェクト)
未着の大震災から一年半、
中学生はこの国の未来に何を見るのか**

**「生徒会メディアの構築」関係
『生徒会新聞』の発行、「生徒会広場」の構築
2012年9月～2012年12月**

**『全国生徒会サミット2013福島大会』
2013年8月1日～6日@福島市**

**文部科学省「いじめ対策生徒指導強化事業」委託
SENDto2050 PROJECT「全国生徒会サミット2013～いじめ撲滅宣言～」
2013年9月25日～26日@文部科学省「講堂」&オリンピックセンター**

公益財団法人夢現エデュテイメント(SENDto2050 PROJECT)とは 『これまでの活動～平成24年度(一部紹介)～3/3』

5

■全国生徒会サミット2012【事後の取り組み】

「ACTION PLAN2012」が実現！「実践」の始動！！

各参加校が全国生徒会サミット2012で作成した「ACTION PLAN2012」を、生徒会の皆が各校へ持ち帰り、全国サミットに参加していない他の生徒会メンバーや学校の間に一生懸命思いと内容を伝え、9月末から各校にて具体的な「実践」が生まれてきています。SENDto2050は実践校の具体的活動を様々な側面でサポートしています。

○宮古市立河南中学校の実践(地元特産物のPRと販売の様子)



○浪江町立浪江中学校の実践(共通テーマの文化祭の開催/ 共通テーマ(笑顔～ハピネス～)ビッグアートの製作)



○気仙沼市立階上中学校の実践(地元小学校への防災啓蒙運動/防災カルタや紙芝居などを通じた防災啓蒙活動)



○福島市立吾妻中学校の実践(地元特産物の風評被害へアクション！地元特産物のPR、販売ボランティア)



■SENDto2050「実践」参加校2012(被災3県)

岩手県：宮古市立河南中学校、釜石市立釜石中学校、釜石市立大平中学校、釜石市立唐丹中学校
大船渡市立第一中学校、大船渡市立末崎中学校

宮城県：気仙沼市立氣仙沼中学校、気仙沼市立階上中学校、石巻市立飯野川中学校、石巻市立牡鹿中学校
石巻市立渡波中学校、塩竈市立玉川中学校

福島県：福島市立吾妻中学校、福島市立蓬莱中学校、福島市立第一中学校、伊達市内全6中学校
いわき市内中学校調整中、浪江町立浪江中学校、大熊町立大熊中学校 ほか

*2012年9月～12月を「実践」の活動期間としており、上記の実践校の各活動に対して、SENDto2050は活動報告書の作成や、全国への発信を主にサポートしてまいります。

*SENDto2050は「実践サポート・チーム」を発足し、パナソニック(株)様や岩手復興局、宮城復興局様のご賛同のもと、ウォンティアサポートの派遣を有志で行って頂いております。

■全国生徒会サミット2012 参加校・参加者一覧

■東北3県ブロック

岩手県

- 宮古市立河南中学校
- 沢田日葉／前川誠亦
- 大槌中学校
- 中井李芽／佐々木絵也
- 吉里吉中学校
- 芳賀柳花／田中歩
- 釜石市立釜石中学校
- 小原浩一／松本康祐／小澤美久
- 木村絵梨／曾田紅葉／新沼元樹
- 藤井 美実
- 釜石市立里子中学校
- 平松航大／三浦 海斗／大畠 雄輝
- 佐々木 美知／吉田奈央
- 釜石市立釜石東中学校
- 沢田 桑子／小川海
- 釜石市立舟丹中学校
- 木村 晴歌／千葉 健太郎／木村季次
- 釜石市立大平中学校
- 及川洋大／玉木瑞玲／菊池 智哉
- 佐々木 希／菊池 球太／鹿本清風
- 大船渡市立第一中学校
- 高橋 舟／佐々木真央
- 大船渡市立木崎中学校
- 大船渡市立雄崎中学校
- 大津 沙也／千葉 文也
- 大船渡市立吉浜中学校
- 野田 康大／白木澤亮

宮城県

- 気仙沼市立氣仙沼中学校
- 高橋 修也／鈴木愛／櫻井 琴里
- 菊田 彰加／脇坂 健太
- 気仙沼市立階上中学校
- 高島 大也／岩削 宏成
- 石巻市立飯野川中学校
- 首藤 聰／松崎 新祐／水沼友里
- 山内 利佳／佐藤 可菜

■全国ブロック

北海道

- 札幌市立八条中学校
- 泉 貞貴

秋田県

- 由利本荘市立本荘中学校
- 清野 良太
- 大館第一中学校
- 安部 人輝
- 大館第二中学校
- 細谷 享平

新潟県

- 小千谷市立小千谷中学校
- 若井 優夢

東京都

- 三鷹市立第三中学校
- 齊藤 明由香

■東北3県

福島県

■東北3県

SENDto2050 PROJECT「全国生徒会サミット2013」

《アンケート結果(県立広島大学 金山健一)1/2》

6

SENDto2050 PROJECT

「全国生徒会サミット2013福島大会」「全国生徒会サミット～いじめ撲滅宣言～」アンケート結果

県立広島大学 金山健一

1 目的

SEND to 2050 Project が実施した「全国生徒会サミット2013福島大会」「全国生徒会サミット～いじめ撲滅宣言～」に参加した中学生・高校生が、どのような内的な変化があり成長したかを心理学の知見から明らかにする。

2 方法

(1) アンケート対象

「全国生徒会サミット2013福島大会」に参加した中学生206人・高校生11人
「全国生徒会サミット～いじめ撲滅宣言～」に参加した中学生45人
上記は、アンケート用紙を提出した人数である。

(2) アンケート時期と場所

「全国生徒会サミット2013福島大会」2013年8月6日～10日
福島市内の3会場
福島テルサ AOZ パルセ飯坂

「全国生徒会サミット～いじめ撲滅宣言～」2013年9月24日～25日
国立オリンピック青少年総合センター
文部科学省第2講堂

(3) アンケート項目

① 自尊感情尺度

Rosenberg (1965) が開発した自尊感情尺度 (Rosenberg Self-Esteem Scale) で「自尊感情」を測定した。質問項目は、「私は、自分自身にだいたい満足している」「私には、けっこ長所がある」「私は自分のことを前向きに考えている」など合計10項目である。

各項目に対して「1=まったくそう思わない」「2=あまり思わない」「3=少し思う」「4=強く思う」とした。算出方法は、得点を加算した指數を得点とした。最大値は40点、最小値は10点である。

② 共同体感覚尺度

高坂 (2011) が開発した共同体感覚尺度で、「所属感・信頼感」「自己受容」「貢献感」を測定した。質問項目は「所属感・信頼感」では、「自分から進んで人の輪の中に入ろうとする」「自分から進んで人と信頼関係をつくることができる」など、10項目である。「自己受容」では、「自分自身に納得している」「欠点を含めて自分が好きだ」など、6項目である。「貢献感」では、「進んで人の役に立つことができる」「困っている人に対して積極的にすることができます」など7項目である。

各項目に対して、「1=まったくそう思わない」「2=あまり思わない」「3=少し思う」「4=強く思う」とした。算出方法は、得点を加算した指數を得点とした。「所属感・信頼感」では、最大値は40点、最小値は10点である。同様に、「自己受容」では、最大値24点、最小値6点。「貢献感」では最大値28点、最小値7点である。

(4) アンケート設定理由

今日、子どもたちは、学校・家庭でも様々な問題に直面している。いじめ、不登校をはじめ、ゲーム、インターネット、携帯電話でも新たな課題も抱えている。自分への自信のなさ、人とのつながりのなさを、どのように克服したくましさを育成するのが大きな課題である。

そこでサミットの活動が、本当に「自尊感情」「共同体感覚」の育成に対して効果があるかどうかを測定するためにアンケート調査を実施した。

① 自尊感情尺度

Rosenberg (1965) は、自尊感情は2つの異なる側面があることを指摘している。1つは個人が自分は「とてもよい (Very good)」、もう1つは「自分はこれでよい (good enough)」と感じる側面である。

自尊感情尺度 (RSES) では、後者の自尊感情「これでよい」と感じる程度を測定している。自分と他者を比較して、自信を感じるとか、優越感を持つとかではなく、自分自身に対して、価値のある人間だと感じることができる。自分に対して価値がないと感じている生徒は、自信もなく自己肯定感も低く、ちょっとした躊躇で不適応を起こしやすい。そこで本アンケートでは、サミットの活動を通して自尊感情の変容を確認する。

② 共同体感覚尺度

共同体感覚は Adler の個人心理学の理論概念である。Adler の共同体感覚の定義は、「他人の人の目で見て、他の人の耳で聞き、他の人の心で感じることができる」である (Adler, 1927)。Crandall (1981) は「他者の対する興味と関心」、Mosak & Maniaci (1999) は「共感的で情緒的な絆」と定義した。

野田 (1998) は共同体感覚は、「私は、共同体の一員だ」という所属感、「共同体は、私のために役に立ってくれている」という信頼感、「私は、共同体のために役に立つことができる」という貢献感の3側面で構成されているという。

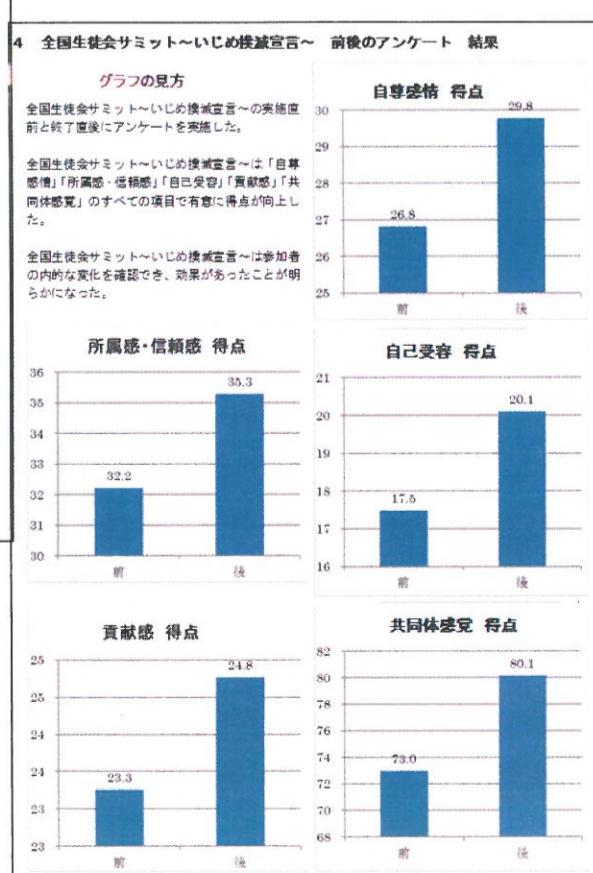
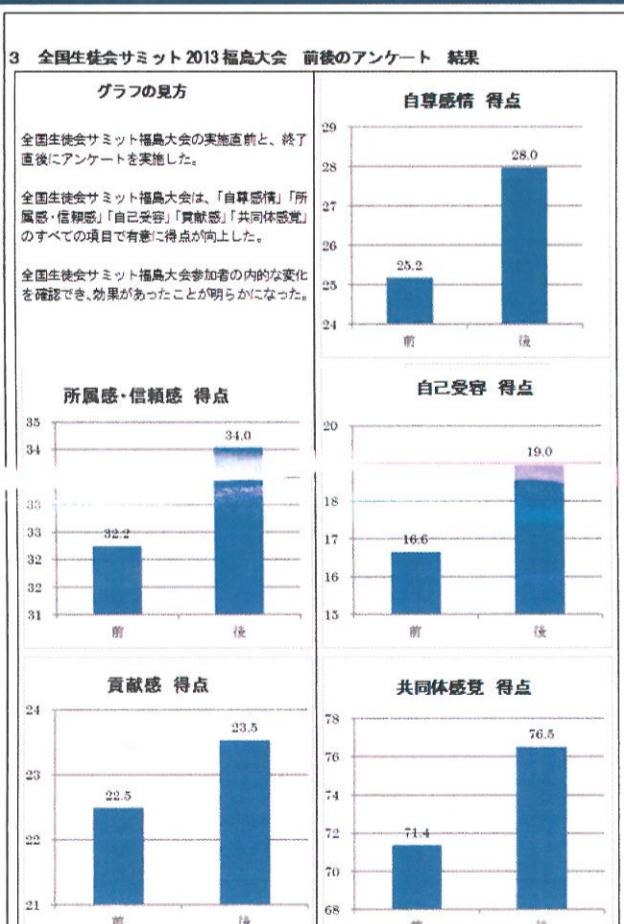
共同体感覚は「所属感・信頼感」「自己受容」「貢献感」で構成されているが、学校適応、劣等感、心理的ストレス反応の関連を指摘している (高坂, 2011)。サミットでは、所属の欲求・承認欲求が満たされ、共同体の感覚が育成されると推測している。サミットに参加するにより、安全が保障された環境では、共同体感覚の向上には効果があると期待している。さらに、生徒支援の視点から、不登校、対人関係の問題への予防にも期待できる。



SENDto2050 PROJECT「全国生徒会サミット2013」

《アンケート結果(県立広島大学 金山健一)2/2》

7



5 アンケートのデータ分析

「全国生徒会サミット2013福島大会」「全国生徒会サミット～いじめ撲滅宣言～」の実施前と実施後を比較すると、全項目で得点が有意な確率を持って向上している。よって、サミットは、参加者の「自尊感情」「所属感・信頼感」「貢献感」「共同体感覚」の向上に影響を与えることが判明できた。

全国生徒会サミット2013福島大会の実施前後のアンケート結果

	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	実施前後の比較
自尊感情	前	25.18	4.109	-6.171	.000 ***
	後	27.97	4.814		前<後
所属感・信頼感	前	32.24	5.080	-3.693	.000 ***
	後	34.03	4.938		前<後
自己受容	前	16.65	3.532	-7.005	.000 ***
	後	18.96	4.015		前<後
貢献感	前	22.49	3.405	-3.136	.002 **
	後	23.53	3.753		前<後
共同体感覚	前	71.38	10.758	-5.315	.000 ***
	後	76.51	11.876		前<後

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

全国生徒会サミット～いじめ撲滅宣言～の実施前後のアンケート結果

	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	実施前後の比較
自尊感情	前	26.81	4.377	-7.372	.000 ***
	後	29.77	4.932		前<後
所属感・信頼感	前	32.21	4.565	-6.965	.000 ***
	後	35.28	4.194		前<後
自己受容	前	17.49	3.369	-8.798	.000 ***
	後	20.09	3.206		前<後
貢献感	前	23.26	2.920	-3.742	.001 **
	後	24.77	3.022		前<後
共同体感覚	前	72.95	9.355	-8.213	.000 ***
	後	80.14	9.563		前<後

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

6 結論

2つのサミットとともに、すぐれた教育効果を持つことが証明された。サミットでの活動は、実際に人と意見を交わしながら、自己理解・他者理解・相互理解を促進させ、人とつながることで成長できた結果と考える。今後の課題として、この成長した力を地元の学校に戻った際に、維持・継続できるどうかが問われる。サミットは実践重視ではあることは言うまでもないが、本調査と同様の客観的評価も必要である。

本サミットは、子どもたちの未知なる力を信じて推進しており、参加した子どもたちが将来、大きな可能性を發揮できる動機づけを後押ししている。現在の日本では最も優れた教育プログラムの1つであり、今後の継続した実施が必要である。



SENDto2050 PROJECT「全国生徒会サミット2013」 《全国生徒会ネットワーク(SNS)を構築》

8

全国生徒会サミットネットワークの構想について

1 目 的

全国の生徒会役員および顧問の情報共有と交流を図る

2 機能

- ①活動報告とその評価ができるブログ機能
 - ②写真や動画を共有できる機能
 - ③資料を共有できる機能
 - ④質疑応答ができるチャット機能
 - ⑤アンケート機能

3 配慮しなければならない事項

- ア 個人情報のインターネットへの流出を防ぐ。
 - イ 生徒会メンバー以外の侵入等を防ぐ。
 - ウ メンバー間のトラブルを防ぐ。

4 実現の方法と可能性

○ フリーSNSサーバを利用する。

利点：基本無料で利用できる。

ブログ（日記）機能がある。

資料をクラウド上で共有できる（容量が大きくなると有料）

チャット機能を持つ。

欠点：学校のネットワークから利用できない。（fks の場合）

広告が常に表示される。

- facebook のグループ機能を利用する。

利点：基本無料で利用できる。

タイムラインを利用して動画や写真を共有できる

一般に公開することが簡単にできる。

欠点：資料等をアップロードして共有することができない

セキュリティの設定が細分化されすぎており、設定が難しい

全国中学生・高校生サミットネットワーク

SENDto2050 PROJECT

○ 目的
全国の中学校・高校の生徒会が、各自の実績を報告したり、情報を共有したりして、ネットワークをつくる場を設ける。

○ 概要
 グループウェア「aico.com」を使用する。
 クラウド型のグループウェアのため、場所や端末を選ばず、Wi-Fi環境があれば、PCだけではなく、スマートフォンやタブレットでもアクセスできる。
 变遷されたメンバー以外は閲覧、書き込み等ができないため、各校でアカウントが管理されているより安全である。
 主な機能として、タイムライン機能、雨雲帳機能、スケジュール共有機能、伝言板機能を提供する。
 各校に1つのアカウントを提供し、顧問教師と生徒会役員が共用使用する。

○ 使用方法

① aico.comにアクセスする。インターネット上でaico.comを検索し、ページを表示する。

② ログインする。

③ メールアドレスおよびパスワードを入力する。ログイン。

④ マイページについて

○ その他
 使用方法等で不明な点があれば、また、トラブル等があれば、タイムラインに上げていただきか、下記連絡先までメールでお願いします。
 生徒会のメールアドレスを使用しますが、アカウント名として利用するのはほとんどです。生徒会役員の生徒会用に利用させても学校でのメールにアクセスできるわけではありませんのでご安心ください。
 また、顧問教師のみ利用するか、生徒にも利用させるかについては、各校でご判断ください。

○ 運営元

中学生サミットネットワーク運営者 : nts.sch.micu11.send_to_2050@gmail.com
 高校生サミットネットワーク運営者 : nts.hi.council.send_to_2050@gmail.com

1. タイムライン ・・・ 活動・情報の共有
 生徒会での活動の様子、便箋等、各校の生徒会活動の状況を書き込んでください。
 書き込んだ内容には、学校名が表示されます。
 書き込んだあとには、「登録する」ボタンを押すのを忘れずに。
 書き込んだ内容は、すべてのメンバーに共有されます。(Facebookのタイムラインと同じです)
 ⑤ 書き込み全体で1,000バイトしかありません(現在のところ)。よって、画像や映像は、
 Google Drive等他のクラウド環境、もしくはメールで直接やりとりするようお願いします。
 ⑥ せっかく書き込んでも、既に反応してくれないとモチベーションが下がります。閲覧したら、
 「いいね!」をクリックするか、積極的にコメントを書き込みましょう。

2. 報告板 ・・・ 言し合いの場
 他校に意見をまとめたり、自分の意見を述べたりします。すでにトピックに自分の意見を書き込んだり、新たにトピックを追加したりできます。特に個人的な意見の場合には、自分の名前を書いておくことをおすすめします。

3. 伝言メモ ・・・ 書類のやりとりに
 やりとりをしたい学校を指定して伝言を傳することができます。この内容についてでは、指定した学校以外には公開されません。

4. スケジュール ・・・ 予定の共有
 公開する手順を指定して、スケジュールを作成することができます。校内や地域内での予定の共有ができます。



©2009 Mugen Edutainment Foundation

SENDto2050 PROJECT

ROAD TO DREAM

～夢実現への道(2020年に実現)～

『世界生徒会サミット2020』@東京

～The World Junior Leaders Summit2020～

『世界生徒会サミット2020』開催へ

『世界生徒会サミット2020』開催へ

SENDto2050 PROJECTとは、公益財団法人夢現エデュテイメントの理念でもある「教育を通じた世界平和への寄与」を目的とした、次世代グローバルリーダー育成事業です。

同プロジェクトが始動した2009年からの「夢」でもある…

世界各国の次世代リーダーが集い、平和について議論し、平和貢献に向けたアクションプラン(行動計画)を作成する場「世界生徒会サミット」の開催実現。そして、世界の参加校が協働したアクションプランの実現を通じて、平和への一歩を踏み出していく。

そして、東京オリンピック2020が決定しました。

スポーツを通じての世界平和への貢献を目指す祭典と連動させて頂き、教育を通じた世界平和への貢献を目指す「世界生徒会サミット」の開催を2020年に東京にて開催させて頂きます。

国連加盟193カ国の中学生リーダーが集う、
『世界生徒会サミット2020』の開催実現へ

《展望1/2～2020年計画～》

2020年(国内)

- ・全国47都道府県にて・都道府県サミットの開催を行う
- ・各都道府県教委との共催を目指していく
- ・全国、世界サミットに向けた事前学習の場として位置付ける

中学校生徒会による
各地域での
社会イノベイティブ事業

2017年～2019年：全国40都道府県での開催

2015年～2016年：全国30都道府県での開催

2014年：東北含めた約10都道府県での開催

2012年 2013年

- ・東日本大震災復興教育の一環として
- ・文部科学省の委託を受け
- ・被災地3県の約500校が参加
- ・被災地の実施モデルを和歌山、愛知などへ広げている。

2014年→2020年

2020年(国際)

- ・国連加盟193カ国の中学校生徒会が集う「世界生徒会サミット2020@東京」を開催する。
- ・同年、世界各国の中学校生徒会が協働した世界平和に貢献できるアクションプランを世界中で実践していく
- ・同年、世界各国の中学校生徒会のネットワークを構築する。

2017年～2019年：「世界生徒会サミット2020～4大陸～」

2015年～2016年：「世界生徒会サミット2020～2大陸～」

2014年：世界生徒会サミット2020実行委員会を発足

SENDto2050 PROJECT「次世代グローバルリーダー育成事業(中学校生徒会対象)」 10
《展望2/2～2020年計画～》**2020年以降(国際)**

- ・100カ国以上が参加する大規模の世界生徒会サミットは
- ・2年ないしは4年に1度開催をしていく
- ・各大陸での開催は状況によって通年開催としていく

FINAL MISSION (2050年)

参加した世界各国の中学生リーダーが2050年。各界のリーダーとなり、このプロジェクトを通じて築いていくリーダーネットワークを基に、平和への一歩を踏み出せるように。

2020年以降(国内)

- ・各都道府県教委が主体となる通年開催を目指していく
- ・全国生徒会サミットは本部が通年開催を行っていく
- ・各校の実践サポートも地域に根付く仕組みで実施していく

**世界193カ国の
中学校生徒会が
協働して実践****世界平和に
向けた行動から
なる貢献****全国の全中学校
協働した実践****日本の課題を
各地域から
イノベーション**

2020年(国内)

・全国47都道府県にて・都道府県サミットの開催を行う

・各都道府県教委との共催を目指していく

・全国、世界サミットに向けた事前学習の場として位置付ける

2017年～2019年：全国40都道府県での開催

2015年～2016年：全国30都道府県での開催

2014年：東北含めた約10都道府県での開催

2012年 2013年

・東日本大震災復興教育の一環として

・文部科学省の委託を受け

・被災地3県の約500校が参加

・被災地の実施モデルを和歌山、愛知などへ広げている。

2014年→2020年

2020年(国際)

- ・国連加盟193カ国の中学校生徒会が集う「世界生徒会サミット2020@東京」を開催する。
- ・同年、世界各国の中学校生徒会が協働した世界平和に貢献できるアクションプランを世界中で実践していく
- ・同年、世界各国の中学校生徒会のネットワークを構築する。

2017年～2019年：「世界生徒会サミット2020～4大陸～」

2015年～2016年：「世界生徒会サミット2020～2大陸～」

2014年：世界生徒会サミット2020実行委員会を発足



©2009 Mugen Entertainment Foundation